

三愛 ビュウ view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344

「新8病棟～ストレスケアのある病棟～」

「話し合いのできる病棟をめざして」

8病棟看護師長 西山 房代
 南館が開設されて約半年が経ちました。今回8病棟の概要を説明するとともに看護師として日々心がけていくことについて述べたいと思います。

平成15年6月1日に南館が設立しました。その3階に位置する8病棟は見晴らしが良く東には飯ノ山、西には田村池があり周囲が見わたせるようになっています。病棟内は東西のゾーンに分かれており、西ゾーンは男女混合開放病棟52床、東ゾーンはストレスケア病棟8床の計60床で構成されています。

ナースステーションは開放的なオープンカウンターで両方のゾーンにすぐ対応できるようになっています。病室は個室と2人部屋、4人部屋があります。2人部屋と4人部屋は、カーテンと間仕切り家具によって個々のプライバシーを保てる個室風になっています。個室は有料ですが安価であり、扉は本人の意志でロックも可能で快適な療養生活を送ることができます。ホールには各所にデイルーム、談話コーナーがありくつろげる雰囲気づくりをしています。11月現在の男女の内訳は男性34名女性22名で、年齢層は幅広く22歳から80歳の方までいます。入院期間も数週間の方から10年以上の長期の方と様々であるため、個々に応じた対応が求められます。

スタッフは看護師正看11名、准看11名、看護助手9名の計31名です。受け持ち制であり、個々に対してきめ細やかな気配りのある関わりをもち、コミュニケーションを図れるよう看護サービスの向上に努めています。受け持ち看護師が休みの時は、他の看護師も関わるようになるため偏りなく平等な対応が必要になります。毎日の生活に直接関わりながら悩み事や楽しいことを共有し、信頼関係を築いていくことでより安心した生活が送れるよう身近で支援しています。

男女混合病棟での療養生活を送る中で、困った事がある時は随時病棟のデイルームでミーティングを開き、話し合いを行うようにするなど少しでも過ごしやすい環境に近づけていきたいと考えています。新病棟に移り6ヶ月になりますが、アメニティが充実されたことによって

安心と余裕が生まれる今、それを最大限に生かした快適な療養生活を送ることができる様、看護師としてより質の高いサービスを提供する努力が必要です。入院中の方だけでなく御家族や他スタッフなど少しの意見をも大切に、ゆっくりと聴く耳を持ち誠意を尽くしていきたいと思っています。



「ストレスケアゾーンのほうは…」

臨床心理士 川勝 寛子

南館3階8病棟の東側はストレスケアゾーンとなっています。病室は2人部屋がひとつ、4人部屋がひとつ、A・B個室がひとつずつあります。2人部屋・4人部屋の病室のつくりは西側の男女混合開放病棟と同じく、間仕切り家具とカーテンで個室風に仕切ることができるようになっています。私物を入れる棚は一部鍵付きとなっており、ちょっとした手持ちの小遣いを自分で管理できるようになっています。さらにA・B個室はプライバシーが守れるホテルのような個室となっており、A個室はバス・トイレ・テレビ付きで外部へ電話をかけることができ、椅子・テーブルの3点セットがあります。B個室はバスがない以外はA個室と同じ設備です。A・B個室ともナースコールと酸素・吸引の設備があり、ストレスケアを必要とする方に幅広く対応できるようになっています。平日夕方に臨床心理士が出向き、医師より依頼された方の心理検査や心理面接を行っています。

部門紹介 三船病院 栄養管理室

栄養課主任 横田 富機代

当院の給食部門は診療部に属し、管理栄養士・栄養士・調理師・調理員・パートの総勢20名で構成されています。給食管理・栄養管理・衛生管理を中心に、皆さまに喜んで食べていただける給食を日々目指しています。一日の平均給食数1900食(職員食含む)を提供し、病棟配膳を取り入れ「温かい物は温かいうちに食べていただく」をモットーに配膳時には給食スタッフが病棟に出向き、盛り付け指導及び喫食状況の把握等もしています。

今年は三船病院創立50周年にあたり給食部門も大きく変化し、従来のコンピューター管理からオーダリングシステムを導入し創立記念日でもある7月1日より稼動しています。5ヶ月たった今では給食業務もスムーズに進んでいます。私達スタッフは今後も皆様のニーズに合ったメニューを作成し、心豊かな食生活を送っていただけるよう努力していきたいと思っています。

最後に当院の人気メニューを紹介しておきましょう。年に2回入院中の方に嗜好調査を行っており、以下のような順位となりました。

- 第1位 何といっても香川特産のうどん！！
- 第2位 季節の野菜を取り入れじっくり煮込んだ特製カレー！！
- 第3位 当給食スタッフ自慢の散らし寿司！！



ストレスケアゾーンには専用の出入り口があり、入っすぐに面会室があります。北側吹き抜けに面した大きな窓があるので明るくゆったりと面会することができます。共同のお風呂は家庭用のバスタブが入っており、一人ずつ順番に入っていただいています。「入ったよ」「次どうぞ」という声かけがあり、良いコミュニケーションのきっかけにもなっています。専用のデイルームにはテレビ・煙装置・ポットなどが置いてありナースステーションの出入り口に面しているため、看護師に気軽に声をかけられる距離となっています。看護師のほうも、プライバシーを尊重しながらもきめ細かなコミュニケーションを目ざして日々努力しております。

デイルームでは話をしたり、趣味の工作をしたりとそれぞれで過ごされています。今の問題や家族のこと人間関係など自分の話をしたり相手の話を聞いたりしながら、自分のあり方を考え直す機会もあるようです。また人に知られたくない、人と接したくない場合も、その時間は尊重されています。一人でひっそりと過ごす時間を持ってもらえる方もいれば、自然な人間関係の中から数人で買い物に出たり、ぼかぼか温泉に行ったりされています。入院期間が比較的短い方が多いためその時々で雰囲気は変わっていきませんが、今年6月に開設されて以来、先に入院された方があとから入院された方を誘って外出するということがしばしばあります。もちろん、一人で行動するのを好まれる方もいらっしゃいます。

ストレスケアで入院されている方々なのでそれぞれの背景に複雑な事情を抱えており、お互いに理解し合えるところもあれば理解しにくいところもあるようです。また、病棟内で改めて人間関係を考えなおされる方もいらっしゃいました。日常のストレスから離れ休養する施設であるけれども、そのとき入院した方同士で勇気づけあったりする場であってほしいと思います。



三船病院医師からのメッセージ...

インフォームド・コンセント(IC)

三船病院医師 花房 憲一

精神医療においてもICが重視されるようになってきています。ICとは治療者により症状・診断・治療の十分な説明が行われ、本人がその内容を理解した上で同意することです。

精神疾患の診断は既往歴・家族歴・生活史・病状・経過などの情報を患者本人もしくは家族から面接を通して得ることが基本です。必要に応じて血液・画像検査等が行われますが、身体疾患のように特異的・確定的なものではありません。原因や本態が十分に解明されてもありません。従って診断を下し病名告知する場合、客観的データを基にした説明が困難なことから、病名が臓器・器管・部位を表した名称ではないため、病名を聞かされても釈然としなかったり理解しにくいこともあるかと思われれます。また、本人に病気に対する自覚・理解・判断・同意能力が備わっていないかたり治療を拒否する場合もあり、人権と治療の必要性という医学的判断とのはさまに心をいためることもあります。

診療の原則は治療者・患者間の信頼関係の成立が重要ですがこの信頼関係を構築する上でICは欠くことができないものと考えます。

三愛会 トピックス

医療法人社団三愛会では11月9日(日)午前8時半より丸亀市消防署・消防団との合同火災防ぎょ訓練を実施しました。四国地方での大地震による負傷者の発生、南館6病棟喫煙室から出火との想定により、消防団・自衛消火班による一斉放水消火訓練の実施、はしご車・救助隊・自衛救護班合同による負傷者の救出・救護・搬送訓練をしました。

入院中の皆さまは悪天候のため206名が病棟内での避難点呼、106名が屋外へ避難し、参加した281名の職員は通報と併せて南館避難通路の確認など避難誘導、屋外屋内消火栓による放水消火及び消火器を使用した初期消火訓練などを行い、熱心に取り組みました。その後、起震車による体感もありました。

悪天候の中での訓練となりましたが、災害は天候に関係なくいつ何時起こるかわかりません。反省会では「自分達の職場は自分達で守る」という基本理念を再確認しました。「備えあれば憂いなし」という言葉もありますが、今後も職員一同防災意識を高め日々努めていきたいと考えています。

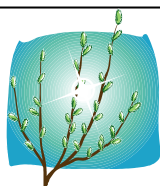


9月17日(火)坂出市NSKグラウンドにおいて第73回香川県ふれあいソフトボール大会が開催されました。トーナメント方式で計11チームが戦い、決勝戦まで勝ち抜いた三船病院チームは前回は引き続き見事優勝を勝ち取りました。

11月13日(木)丸亀市民体育館において平成15年度中西讃地区デイケア親善レクリエーション大会が開催されました。計6つの機関のデイケアがソフトバレーボールで対戦し、三船病院デイケアチームが見事優勝しました。参加されたみなさん、お疲れ様でした。



心理士コーナー



少年の輝き

三船病院心理室課長 片山 泰生

私が大学の心理学科に入ったのは四半世紀以上も前のことですが、先生方からよく言われて記憶に残っているのは「心理学は常識に毛が生えたような学問」という一節です。しかし今、人々が考えている常識とは何がスタンダードになっているのでしょうか。親が言うこと、友達が言うこと、上司が言うこと、入院中の皆様にとっては主治医の先生が言うこと、みな何かしら整合していないと思うのです。

私たちはいろいろな場面でいろいろな人と会ったり行動を共にしますが、その源になっているものは心のスクリーンに記録されている感情そのものです。言いかえると少年少女の時に感じていたことを思い返し再び今に戻ってくる、いい思い出、辛いこと、明るく笑っていたこと、どれもが輝いていた少年少女時代のプレイバックではないでしょうか。ever since.

お知らせ 心理面接室が作業療法センターの入口右側に出来ました。私共、心理士とお話いただける方は、北館9番相談室内、川勝あるいは片山まで。



【 介護老人保健施設 福寿荘 】

支援相談員 森本 将夫

介護老人保健施設福寿荘は県下6番目の老健施設として平成2年5月に開設しました。現在の入所定員は80名(ショートステイ含む)、デイケア定員20名です。介護保険の施設であり、医療機関に入院の必要のない程度に病状の安定した(主に)65歳以上の方に、医療と介護及びリハビリテーションを総合的に提供しています。ご利用には事前に市町村に申請し、要介護・要支援認定を受けていることが必要となります。入所するには要介護1～5、デイケア・ショートステイの利用には要支援か要介護1～5に認定されることが要件です。ご希望があればデイケア・ショートステイは送迎も行います。利用料金は入所が1ヶ月5万円前後～、デイケアが入浴・送迎付きで1日千円～です。入所は若干の待機がありますが、デイケアはすぐに利用可能です。ご希望の方は介護老人保健施設福寿荘(0877-25-5757)までご連絡ください。



【 三愛会コミュニティケアセンター 】



地域生活支援センター はなぞの

PSW 福田 未知栄

はなぞのは地域で生活している精神障害を持つ方で、日常生活を営むにあたり支援を要する方を対象に日常生活への支援や相談への対応、生活資源等の情報提供、さらに地域内の関係機関や団体との協力関係を基盤にした地域住民との交流への支援を行っています。またサテライト支援センター「城西」「つどい」の運営によって地域内での活動も展開しています。

生活訓練施設 花園荘

施設長 山田 智子

花園荘が平成9年4月にオープンして今年で7年目になります。生活訓練施設とは、精神障害のために独立または家庭で生活を送ることが困難な方を対象に一時的に生活の場を提供して社会生活に必要な援助や支援を行い、社会参加や社会復帰を促進する施設です。花園荘はこれまで45名の利用者を迎え、29名を送り出してきました。施設内では様々な個性を持った利用者が、各々の目標をもって生活しています。そして2年という限られた時間の中で社会生活へ移行していく準備をしています。

福祉ホーム 清和荘

管理人 林 康紀

清和荘は、昭和63年7月に社会復帰施設の福祉ホームとして開所した施設です。この福祉ホームとは、自活して生活することはできるけれども、家庭環境や住宅事情などで住居の確保が困難な精神の障害を持つ方に対して低額な料金で居室を提供し、日常生活に必要な援助を行い社会参加と自立の促進を目的とした施設です。定員は10名で、職員は管理人1名、顧問医1名がいます。利用期限があり、原則2年となっていますが延長が必要と認められれば延長することも可能です。

三船病院からのお知らせ

【行事予定】

・12月25日 クリスマス会

【委員会】

- ・医療事故防止委員会(第2水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・褥瘡対策委員会(第4水曜日)
- ・身体拘束廃止委員会(第4金曜日)



編集後記

今月号はストレスケア病棟の様子を主にお伝えしました。今後も機能分化した病棟の紹介や他職種でチーム医療を行う中での専門性やその視点についてお届けしたいと思います。

さて、8月30日に行いました第1回家族教室では三谷Dr.から病気について説明があり「家族の関わり方が分かった」「医師のスタンスが分かった」など好評でした。第2回家族教室は12月13日(土)14時より花園荘施設長山田PSWから精神保健福祉サービスについての説明と家族同士の話し合いなどを予定しています。お申込みは相談室PSWまでお願いします。ご家族の皆様、ぜひお越し下さいませ。